

こうりん



新年あけまして
おめでとうございます。
本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます。

旧年中は火山の爆発、大雨、巨大台風、大雪等々天候不順な
一年でした。

世界情勢も伝染病やテロリズム、虐殺など暗いニュースも数
多く報じられてきました。

争いのない世界はつくれないのか？殺し合いや憎しみ合うこ
とのない世の中はないのか？

宗祖法然上人がおられたころも、不安や恐怖のうずまく時代
であったと思われます。その救いの糧をお釈迦様のみ教えに見
出されたのは専修念仏であったのです。時は流れても普遍的に
存在する救いの道を我々も歩んでいこうではありませんか。

新年の門出にあたって法然上人の御詠をみなさんに送りま
す。

雪のうちに 仏の御名を
称ふれば
つもれるつみぞ
やがてきえぬる

檀信徒各位

ぎよきほうよう
御忌法要のご案内

聖名 新年明けましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、例年1月の「御忌法要」を迎えることになりました。

日本のお念仏の元祖、浄土宗開祖（法然上人）の祥月命日に
あたる1月25日の法要です。

浄土宗久留米門中寺院ご出仕のもとに、下記の通り勤めます。
ご多忙の折柄、恐縮乍ら、何卒万障お繰り合わせご参詣下さい
ますよう、ご案内申し上げます。 合掌

平成27年1月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拝

記

※期 日 平成27年1月25日（日曜日）

※時 間 午後1時より 法 要、御 回 向
午後2時より 法 話

※布教師 全照寺 黒瀬 寛雄 上人

※ご回向料

普通回向 1 霊 1,000 円以上

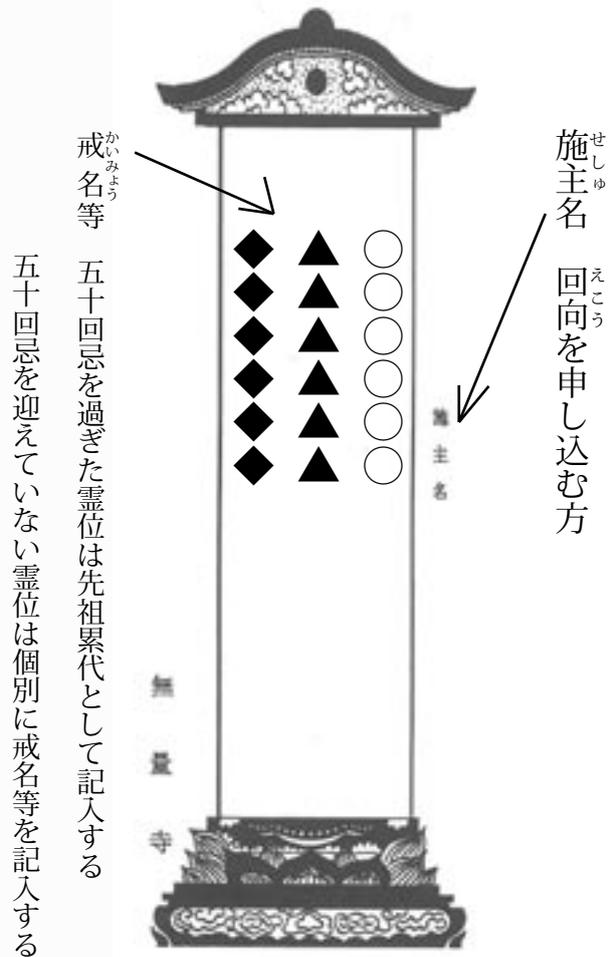
※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

毎日の本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

※銀行振込は ゆうちょ銀行一七九店
当座預金 0016114 ムリョウジ

いはいがた 位牌型の書き方



∧位牌型の書き方について∨

年間の法要では位牌型にお戒名等を書いて読み上げ、ご回向をしておりますが、書き方が良く分からない方もおられるようなので、説明致します。

ご記入方法は右に示しているようにお願い致します。

お家の仏壇からその法要で回向したい霊位のお戒名を書き写して下さい。

お戒名を覚えるためにも、是非ご自身で書いて下さい。

上手に書く必要はありませんが、わかりやすく丁寧に心を込めて写しとって下さい。

シリーズ お葬式

その五

通夜とは？

通夜の起源はお釈迦さまが入滅された時、その死を悲しむ弟子たちが、お釈迦さまを偲んでその教えを夜を通して語り合ったことに由来しています。まさに夜を通して、ただただ悲しむだけでなく、亡くなった人の思い出やその人に対する思い、その人から教わったこと、影響を受けたことなど、自分の人生の中のいろいろな関わりを整理し、自分のこのころの中にぎざむための、大切な時間なのです。できれば灯明を絶やす事なく、朝まで家族、親族が亡骸のそばで見守ってあげたいものです。

斎場などでは宿泊のできないところもありま

す。ですが可能なかぎり、夜通しそばにいてあげましょう。また、会葬に来ていただいた方との時間もできるだけ優先し、たとえ一言でもよいですから、お礼を言えるのが理想的なお通夜といえるでしょう。

さて、通夜での法要ですが、本来は故人のために家族、親族など、身近な人たちの前で僧侶がお経をあげ、冥福を祈るものです。ですから、家族、親族も僧侶と一緒にたってお経をあげたり、故人の冥福とともに願うのが自然の姿なのです。

そして、故人を想う人が夜通し棺のそばにいて、思い出を静かに思い起こすための夜なのです。

法然上人絵伝

第七巻 第五段

法然上人、夢の中で善導大師に会う

法然上人はある夜、夢をみた。南から北に長くのびた大きな山が西に向かつてそびえている。山の麓には大河があり、青い水が北から南に流れている。広々とした河原の奥には緑の濃い樹木が繁っている。

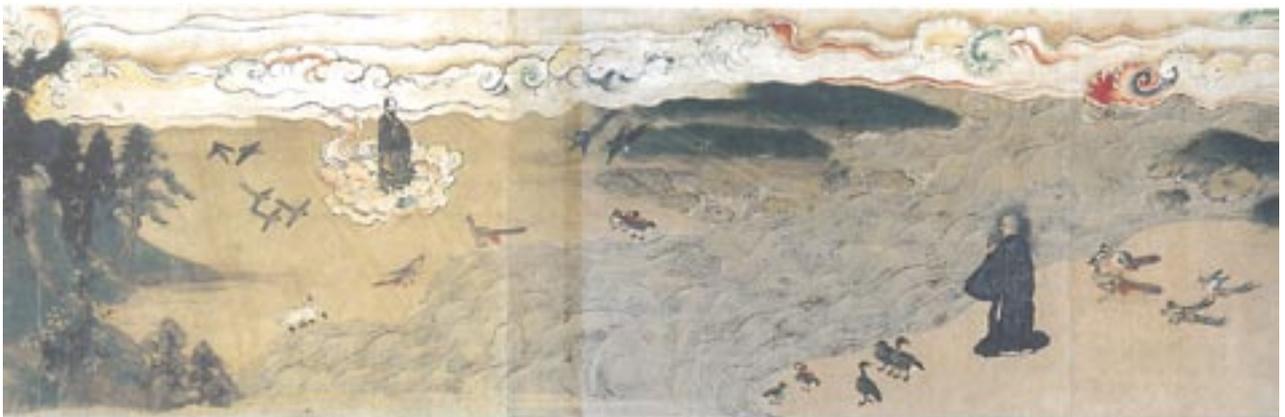
こうりん

山に登って西方を見ると、地上より十五メートルほど上がったところに一群の紫雲があり、あつという間に上人のところに飛んできた。不思議な雲だなど思っていると、この中から数多くの光が出てきた。さらにその光の中から孔雀や鸚鵡など、色あざやかな鳥が四方に飛び出し、キラキラ輝きながら川岸で遊んでいたがしばらくすると元の紫雲の中に入っていった。雲は北に向って移動し山や河を隠してしまつた。すぐにもどつてきて上人のところに近づくと、雲の中から一人の僧侶が出てきた。見ると腰から下は金色であり、腰から上は墨染めの衣を着ている。法然上人は合掌して臥し拝みながら、「あなたはどなたですか」と尋ねた。

すると僧侶は「自分は善導である」と答えた。驚いた法然上人は、何の為に来たのかを訪ねると、「貴方が念佛を広めることは貴いことだ。だから自分はやって来たのだ」と答えたところで夢から覚めた。そこで法然上人はさっそく絵師の乗台に命じてその画像を描かせた。

「夢の善導」といわれるのがこの画像で、後に中国から伝えられた善導大師の画像とそっくりであった、という。まことに不思議な実夢というほかはない。

現代人は鎌倉時代の夢が貴重であった話としてもピンとこないのは無理もない。しかし、鎌倉時代の夢は、真実を証明する有力な証拠になった。とくに僧侶が修行する時の夢の価値は、どのくらい大きかったかは想像を絶するものである。



得度式を受けました。

平成 26 年 12 月 5 日 無量寺本堂 本尊前にて
新発意 玉田 行俊氏と玉田 (旧姓 堤) 清月氏は得度式を受け僧侶としての道を歩み始めました。住職となるべく修行を積み、研鑽してまいります。僧籍登録も済ませました。



玉田行俊と玉田清月 (旧姓 堤)

